

<p>教育目標: ・健康な子ども ・進んで学ぶ子ども ・心の豊かな子ども ・よく働きなしとげること ・考えくふうすることも</p> <p>めざす学校像: 心づくり、体づくり、学びづくり、協働による人づくりを実践する学校</p> <p>めざす児童像: 3つの「あい」に一生懸命取り組んでいる子供(あいさつ、アイデア、高め合い)</p> <p>めざす教師像: 「法の遵守とサービスの厳正」、「プロとしての自覚と使命感」、「組織人としての言動」、「公務員としての社会性・協調性・コミュニケーション能力」を兼ね備えた教師</p>
--

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標		成果指標		今後の課題	学校関係者評価記入欄
				中間	最終	中間	最終		
心づくり	すべての人を大切に する人権意識を醸成し、共感的な人間関係を育む。	相手を思いやり、命を大切に する豊かな心を育てる。	ふれあい月間、人権月間 を活用、挨拶励行や言語 環境を整える取組を工夫 し実施する。	4	4	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動は継続して行ってほしい。活動の中で、挨拶の大切さやコミュニケーションや人への思いやることの大切さを伝えていきたい。 ・児童が自ら提案し、自主的に活動する機会をさらに増やして行ってほしい。 	
		学校・学級の帰属意識 を高め、自己肯定感を 醸成する。	学級活動・学級会・縦割り 班活動等特別活動の充 実を図り、自他の良さを伸 長させる。	4	4	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動を通し、人との関わり方を学んでいると思う。今後も帰属意識を高める取組として大切にしてほしい。 ・様々なアイデアを講じ、行事を企画していると感じている。今後も人との関わりが生まれる企画に期待している。 ・友達や先生と関わるのが楽しいと感じる環境作りや関係作りを行ってほしい。
学びづくり	主体的・対話的で深い 学びを実践し、確かな 学力を育成する。	問題解決的な学習を重 視し、主体的な学びに つながるよう授業改善 を図る。	単元を意識した学習計画 をもとに、児童に見通しを もたせ、「できる」「わかる」 授業を展開する。	4	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・公開等で授業を見て、良い学びをしていると感じている。 ・「自分一人で考える」と「自分なりに考える」は違うことであることを協働的な学習を通して理解することで学習意欲を高めていきたい。自ら考えて学習する姿勢を身に付けさせ、今後も「できる」「分かる」「楽しい」と児童が実感できる授業を期待する。 	
		タブレット端末を効果的 に活用し、学び合いを 通して学力の定着を図 る。	学習場面でタブレット端末 を日常的に活用し、情報 活用能力を育成するとと もに、深い学びをめざす。	4	4	2	2		<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の評価値は低い、日常的な活用は達成できていると感じている。学習場面で効果的に活用するという視点を教員だけでなく児童ももつ必要がある。 ・毎日タブレット端末を持ち帰る必要があるか疑問を感じる。各学年の目標設定を明確にすることで、保護者理解が深まることを期待する。
体づくり	自ら体を動かすこと ともに、すすんで健康な 生活を送ろうとする態度 を育成する。	運動の日常化や体力の 維持向上を図る。	外遊びの励行、運動量を 確保した体育授業、体力 調査結果に基づいた取組 を実施する。	4	4	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年で運動会がコンパクトになってきたが、団体競技などで、団結して取り組む姿に期待する。長縄跳びなどもよいのではないかと。 ・体力調査の結果と一校一取組を関連付けたり、未経験のスポーツに取り組んだりができるとうい。 	
		日常生活習慣の指導 を図り、心身の健康への 意識向上を図る。	「早寝、早起き、朝ごはん」 をスローガンに掲げ、 児童・保護者に啓発を図 る。また、食育を意図した 取組を年間2回実施する。	2	3	4	4		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活習慣については、家庭に委ねる部分が多いが、学校と家庭とが意見を交流し合い、指標を示していくことも必要と感じている。 ・今後とも食育活動において取組を工夫するとともに、情報発信することで児童・保護者の健康意識の醸成を望む。
協働	コミュニティ・スクールと して、開かれた学校づ くりを推進・充実させ る。	学校情報の発信に努 め、学校の見える化を推 進する。	学校だよりをはじめ各種 たより、学校公開、保護者 会、ブログの充実を図る。 CS協議会を中心とした地 域との連携を深める。	4	3	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はボランティアや地域の方への声掛けが増え、地域との連携が進んだと感じている。 ・国分寺学の充実、内容や手法の深化はもちろん、学びを通して育みたい児童像について、地域や保護者の方と共有する努力が必要だと思う。 	